

令和 2 年 5 月 21 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16655

研究課題名（和文）日本軍政期のインドネシア華人社会研究

研究課題名（英文）Study on Ethnic Chinese Society in Indonesia under Japanese Military Rule

研究代表者

津田 浩司 (TSUDA, Koji)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：60581022

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本軍政期（1942～45年）のインドネシア、特にジャワにおける華人（当時の用語法では「華僑」）社会の具体的動向を実証的に明らかにするため、当時華人向けとしては唯一刊行が続けられた日刊紙『共栄報（Kung Yung Pao）』（華語版・マレー語版）に注目し、検討を行った。主要研究成果として、インドネシア国立図書館所蔵の同資料を詳細な解題（日本語・中国語・英語）を付して復刻刊行するとともに、同紙の紙面から華人系諸団体・学校、およびそこで要職者として言及される人名を網羅的に抽出し、データベースとして公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドネシア華人社会の近現代史研究においてはこれまで、1940年代（特に1942～45年の日本軍政期）は当の華人社会が統制・動員のため一元的に組織化された極めて重要な時期であるにもかかわらず、資料の決定的な欠落から「ミッシングリンク」とされてきた。本研究は、日本軍政下ジャワで唯一発行が続けられてきた華人向け日刊紙『共栄報（Kung Yung Pao）』を詳細な解題と共に復刻刊行し、かつ同紙から華人系諸団体や要職者を網羅的に抽出しデータベース化した。このことにより、同時期の華人社会をその前後の時期（蘭領末期、およびインドネシア独立期）と連続的な視野のもと実証的に理解するためのツールを提供した。

研究成果の概要（英文）：This study focused on "Kung Yung Pao" (Chinese and Malay editions), which was the only daily newspaper published for the ethnic Chinese (commonly referred to as "Huaqiao (Hwakiiao)" at that time) living in Java during Japanese occupation (1942-45), in order to empirically clarify the specific trend of the social lives of the ethnic Chinese community in Indonesia, especially in Java.

As the main results of this study, I successfully reprinted (with a detailed commentary paper in Japanese, Chinese and English) the newspaper materials held in the National Library of Indonesia, and also built a database which contains the concrete names of Chinese organizations, schools and important figures extracted from the pages of the paper.

研究分野：東南アジア地域研究、文化人類学

キーワード：ジャワ（インドネシア） 華僑・華人 日本軍政期 『共栄報（Kung Yung Pao）』 社会史

1. 研究開始当初の背景

(1) 1998 年のスハルト体制崩壊後、インドネシアでは従来政治的理由により調査が困難であった同地(旧蘭領期を含む)における中華系住民(以下「華人」)の研究が活況を呈している。それら研究の中にはしばしば、華人が「華人であること」や「華人アイデンティティを保持すること」を所与の前提として議論展開するものが見受けられるが、そうしたややもすれば循環論的な見方を相対化するためには、東南アジア島嶼部の文脈で(中国大陸と連動しつつ)いわゆる中華ナショナリズム運動が勃興すると同時に、社会・政治的に華人を他から区別する制度化の動きが本格化した 20 世紀前半の歴史過程を、マクロ/ミクロ両面で再検討する作業が欠かせない。

インドネシア華人の近現代史研究については、彼らが活発に社会・政治活動を展開するようになった 1900 ~ 30 年代、およびインドネシア社会への参加のあり方をめぐり彼ら自ら大きな論争を行った 1950 ~ 60 年代前半については、豊富な資料(華人系の新聞・雑誌等)に支えられ大いに研究が進展してきた。しかしながら、両時期に挟まれた 1940 年代、とりわけ 1942 ~ 45 年の日本軍政期については、統制・動員のため華人社会が制度的に一元化された(同地の華人社会が結果的に一体化したことは、それ以前にも以降にも歴史的になかった)という重要な時期であるにもかかわらず、資料が決定的に欠落していることが原因で、長らく「インドネシア華人史におけるミッシングリンク」[Kwartanada 1996: 25]とされ続けてきた。

(2) 日本軍政に関する研究分野においては、早稲田大学による概括的な研究[1959]を皮切りに、ジャワ農村の変容を論じた倉沢愛子[1992]等の優れた研究があるが、華人社会に直接的に焦点を当てた研究は国内外ともに極めて乏しい。本研究で主要な資料として位置づけた日刊紙『共栄報』を実際に研究に活用したものとしてはほぼ唯一、トゥン・ペックヤンの先駆的な研究[Twang 1998]が存在するが、同書の関心は 1940 年代のインドネシア華人ビジネスエリート(主にいわゆる「新客(Totok)」)の活動を跡づけることにあり、また当の『共栄報』の扱いについても、専らその華語版のみに依拠しているなど、資料の価値を存分に活かしてきていない。

軍政期資料の検討状況を見ると、陸軍第 16 軍管轄下のジャワに限っても、これまですでに『ジャワ新聞』等の各種定期刊行物、それに軍政規定集や『治官報/Kanpo』を含む基本資料群が南方軍政関係史料として相次いで復刻刊行されてきたが、華人社会に関する資料の体系的な検証は国内外ともに手つかずであり、今後の実証的研究に広く利用可能なようにまとまった形で整理する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、日本軍政下のインドネシア、特にジャワにおける華人社会の具体的な動向を、従来全く注目されてこなかった日刊紙『共栄報(Kung Yung Pao)』(華語版・マレー語版)の精査、ならびに同時代の華人側の資料を読み合わせることを通じて、実証的に明らかにすることを目的とした。20 世紀初頭に活性化した中華ナショナリズム運動は、1930 年代には華人社会内部の政治志向や宗教・教育等の違いから分裂・拡散化の方向を歩むが、日本軍政下において華人社会が一元的に管理されたことで結果的に再求心化され、それが戦後の同国華人社会の政治動向に多大な影響を与えたとされている。

そこで本研究は、詳細が未解明であったその軍政期の華人社会内部(およびそれを取り巻く状況)の動向を具体的に解明すべく、以下の 2 点を目的として設定した。

- (1) 日本軍政期ジャワにおいて華人(当時の紙面・資料上の用語では「華僑」)向けの日刊紙としては唯一発行が続けられた『共栄報』を、研究資料として広く使用可能なように整理する。
- (2) (1)の資料を中心に他の関連資料を精査することにより、軍政下ジャワの華人社会の動向を具体的に明らかにする。この作業を通じて、インドネシア華人史上の重要な空白を埋めるとともに、対華人政策を重要な柱のひとつとした日本の南方軍政に関する研究への接合をも目指す。

3. 研究の方法

- (1) 未検証の新聞資料『共栄報』自体の資料的性質、発刊の経緯や編集体制を明らかにすべく、国内外に残された軍政関係資料や当事者の回想録等、それに同紙の紙面の精査を通して明らかにする。
- (2) 日本軍政期のインドネシア華人社会内部の組織のあり方、その役割・機能の変遷、また特定の主要人物がいかに関わったのか等を、(1)で整理した新聞資料『共栄報』の紙面分析を中心として実証的に解明する。

4. 研究成果

概要

- (1) まず「3. 研究の方法(1)」の作業を通じて、『共栄報』の発刊の経緯や編集体制等を明らかにした。詳細は、本研究の成果として刊行した『復刻 共栄報 1942 ~ 1945』の別冊所収の解題、および論文“Kung Yung Pao, The Only Daily Newspaper for the Ethnic Chinese in Java during Japanese Occupation: An Overview”を参照されたい。以下には、本研究によって明らかになった当該資料の基本的な情報を簡略的に記す。

『共栄報』華語版は、戦前バタヴィア(日本軍政期にジャカルタと改称)で華人向け日刊紙

として最大の発行部数を誇り、「反日」の急先鋒とも目されていた『新報 (Sin Po)』(マレー語版・華語版)の社屋を接收、1942年3月10日(バタヴィア占領の5日後)から華語日刊紙『新新報』として発刊を開始、その3週間後に『共栄報』と改称したものである。拘束・収容された旧『新報』の上層部に代わり、『共栄報』華語版代表には陳伯盈 (Tan Pek Eng, オランダ政庁で中国語の補助通訳官を務めていたとの記録があるが、来歴未詳)が、また編集長には日本留学歴のある林若水 (Lim Liok Soei)が就任し、さらに発刊当初は顧問として、日本占領下の海南島での新聞発行業務で評価を得ていた楊東泰 (Yang Tung Thay, 『海南迅報』社長)が監督業務を行った。1943年末ないし44年初頭にジャワ新聞会がまとめた報告資料(朝日新聞東京本社所蔵)によれば、同時期の華語版発行部数は4,724部、うちジャカルタ市内および周辺部に34%、残りはそれ以外のジャワ島内各地に頒布されていた。現存資料で確認できる限りでは、華語版は1945年8月30日まで1058号が発行された。

一方の『共栄報』マレー語版は、華人系新聞としては珍しく戦前から親日の立場を鮮明にしていたマレー語日刊紙『洪報 (Hong Po)』が母体となった。この『洪報』は、洪門会系の葬祭互助組織としてジャワ島内各地に支部を擁していた和合会 (Hoo Hap Hwee) のバタヴィア支部が出資・出版していたもので、日本軍進駐後もしばらく発刊を許されていた。1942年秋、陸軍第16軍が管轄するジャワにおける新聞発行の統括・指導業務を朝日新聞社に委託することなどを含む「中央新聞統制案」がまとめられたのを受け、9月1日からは『共栄報』のマレー語版と位置付けられることとなった。編集業務の場は印刷工場とともに旧『新報』の社屋に移転・集約されたが、編集長の黄長水 (Oey Tiang Tjoei) 編集長代理の司馬自成 (Soema Tjoe Sing) を中心とする人員体制は『洪報』からほぼそのまま引き継がれた。1943年末ないし44年初頭時点でのマレー語版発行部数は4,283部、うちジャカルタおよび周辺部への頒布は40%であったという。マレー語版は1945年9月15日まで通算932号が発行された。

こうして華語版・マレー語版を擁することになった『共栄報』全体の社長には黄長水が就いたが、『共栄報』を含む現地語各紙を統括・指導するジャワ新聞会による統制が強化された1944年初頭以降は、同一フロア内で業務を行っていた両版の編集部の真ん中に、朝日新聞から出向していた日本人社員1名が「指導員」としてデスクを構え常駐するようになるなど、検閲や「内面指導」の体制はますます強められた。このように『共栄報』は、第一義的には戦時下の華人向けプロパガンダ紙であったことは言を俟たない。ただし、日本の正当性・優越性や日本軍の戦果を(終戦間際まで)華々しく伝え続けた第1面の裏面には、ジャワ島内各地の食糧・物価に関する情報のほか、華僑総会(従来乱立していた華人系の諸団体を一元的に統制・動員すべく主要都市ごとに設置)の活動報告、軍政への献金者一覧等々、ジャワの華人社会内の情報交換ツールとしての特色も存分に見られ、当時の華人社会内部の動向を窺い知る上で重要な情報を提供してくれる。

(2) 次に「3. 研究の方法(2)」に記載の通り、上述のごとく性質を明らかにした『共栄報』の紙面掲載情報を精査分析し、それを基に「『共栄報』データベース: 日本軍政期ジャワの華僑社会」を構築した。このデータベースでは、『共栄報』(華語版・マレー語版)紙面に登場する華人系の主要組織、学校、およびそれら諸組織等において要職者として言及されている人名を、重複を避けつつ可能な限り網羅的に抽出した(華語版については約1,800名、マレー語版については約3,000名分の情報を整理)。ジャワ軍政下の華人名録としては従来、1944年にジャワ新聞会が発行した『ジャワ年鑑』末尾に掲載されている「ジャワ有力華僑一覧」が広く知られてきたが、そこに名が挙げられているのは僅か23名である。これと比べ本研究で整理したデータベースは、当時の華人社会の上層部に留まらず幅広い分野の人々の名前と活動の記録とを拾い上げたことになる。また、日本軍政期に統制・動員を主眼に整序・設置された各種団体が、それ以前および以降の時代と人的にどのように断絶/継続していたのかを、具体的に検証するための有効なツールが得られたことにもなる。

以上、本研究を通して、インドネシア華人史研究において「ミッシングリンク」とされてきた1940年代(特に資料的欠落が著しく、多くが未解明であった日本軍政期)の(特にジャワの)について、当の華人社会内部およびその周辺の政治過程や社会生活の一端を具体的に把握するための膨大な基礎的情報が整理され、戦前~独立後のインドネシア華人社会を連続的な視野のもと理解するための大きな足掛かりが得られた。

年度ごとの主要成果

研究期間中の主要成果に限って、以下年度ごとに概要を記す。

(1) 1年目(2016年度) インドネシア国立図書館(Perpustakaan Nasional RI)所蔵の『共栄報』(華語版・マレー語版)を簡易撮影し、データとして入手した(ただし原資料に一部欠落あり)。また、以下の2点の関連する研究成果をあげた。

①【論文】「「帰国」をめぐる言説空間—1960年前後の『リバティエー(Liberty)』誌の解題」
独立後のインドネシア社会に暮らす華人たちが直面した「帰国」をめぐる問題構成について、同時代の資料に依拠しつつ当時の言説空間の一端を再構成する作業に取り組んだ。この論文が扱う時代は、本研究が主要対象とする日本軍政期より10数年後のものではあるが、華人社会内部の政治的立場の分化を捉える上では両時代は連続性をもって考えるべきであり、その意味で本研究を肉付けする成果である。

②【共編著】『「国家英雄」が映すインドネシア』(木犀社, 2017年)

本論集は、蘭領期・日本軍政期を経て独立を達成したインドネシアにおいて、その担い手とされる「民族＝国民」を代表する者として顕彰される「国家英雄 (Pahlawan Nasional)」にかかわる表象や制度が(当の「民族＝国民」概念の形成と同時並行的に)いかに形成され、また今現在いかに運用されているかについて、幅広く論じたものである。

(2) 2年目(2017年度) インドネシア国立図書館に現存する『共栄報』の欠落分を補完すべく、1985年に撮影された同館所蔵の同資料に関するマイクロフィルムを複製し、記事の整理と読み込み作業を進めた。同年度には、以下の研究成果を刊行した。

①【共編著】『華僑華人の事典』(丸善出版, 2017年)

長らく編集幹事として執筆・編集に取り組んできた同事典には、本研究のテーマとも直接・間接に関連するトピックが少なからず含まれており、国内外の一線で活躍する華僑華人研究者と協働しつつ、政治・経済、そして東南アジアという地域の観点から本研究を位置づけ直した。

(3) 3年目(2018年度) 前年度までに入手した『共栄報』のデータを基に、紙面分析を進めるとともに、朝日新聞東京本社所蔵のジャワ新聞会関連資料の調査を進めた。上述のように軍政下ジャワの新聞発行業務は、陸軍から委託を受けた朝日新聞社が一手に掌握しており、『共栄報』を含む現地語紙を統括・指導するものとしてジャカルタに設置されたジャワ新聞会からは、朝日新聞本社宛に報告が定期的に上げられていた。朝日新聞社に今なお未整理のまま保管されているこれら報告資料の概要を調査する過程で、『共栄報』の発行部数、社員数や会社資産等の経営情報を具体的に把握することができた。また上記に加え、日本軍政期を経験した華人当事者の回想録や档案資料等を渉猟した結果、従来未詳であった『共栄報』華語版の発刊の経緯や初期の関係者について、いくつかの重要な情報を得ることができた。こうして得られた一連の知見は、東南アジア学会2018年度第1回関東例会、および南山大学外国語学部アジア学科セミナー「『国民国家』インドネシア再考」において報告を行った。

これらに加え同年度には、以下の成果を刊行した。このうち①は、本研究の主要成果となり得るものである。

①【監修・解題】『復刻 共栄報 1942～1945』(漢珍數位圖書/ゆまに書房, 2020年)

インドネシア国立図書館所蔵の『共栄報』原資料について、本研究代表者コーディネートのもと出版社(台湾)の専門スタッフに高精細撮影してもらい、復刻刊行を果たした。全32巻より成るこの刊行資料には別冊として、『共栄報』の発行の背景・経緯、社内編集体制や紙面の内容の分析を含む詳細な解題(日本語、および山田清氏による中国語訳)および総目録が付されている。

②【文献解題集(分担執筆)】*Bibliografi Beranotasi Sumber Sejarah Masa Pendudukan Jepang di Indonesia* (Direktorat Sejarah, Dirjen Kebudayaan - Kemdikbud RI, 2018年)

日本軍政期インドネシアの歴史資料の注解書誌集。このうち本研究代表者は、朝日新聞社所蔵の新聞発行業務関連のものを中心に、19件の資料につき書誌情報と注解(日本語・インドネシア語)を付した。

(4) 4年目(2019年度) インドネシア国立図書館、およびジャカルタ市内の複数の資料館で短期の資料収集を行った結果、『共栄報』華語版(およびその前身『新新報』)の発行に携わっていた初期幹部のプロフィール等を含む編集体制、および同紙華語版・マレー語版の社内体制(編集、検閲、印刷等)に関する複数の事実がさらに明確となった。これら新解明の情報を盛り込んだうえで、前年度中に刊行した日本語版解題を大幅に拡張・改訂し、下記を刊行した。また、『共栄報』紙面の分析を通して、前年度から構築作業を本格化していた下記のデータベースを公開した。

①【解題著書】*Kung Yung Pao, The Only Daily Newspaper for the Ethnic Chinese in Java during Japanese Occupation: An Overview* (Transmission Books & Microinfo, 2020年)

【データベース】『共栄報』データベース: 日本軍政期ジャワの華僑社会

(http://sites.anthro.c.u-tokyo.ac.jp/tsuda/home/published_works/kungyungpao#TOC:-)

『共栄報』(華語版・マレー語版)の紙面上に掲載されている華人系の主要組織、学校、およびそれら諸組織等において要職者として言及されている人名のデータベース。なお、日本軍政下での社会活動が、現代インドネシア社会の文脈において依然センシティブな問題を孕み得ることに鑑み、同データベースは研究目的のために限りパスワード付きでウェブ公開している。

参照文献

倉沢愛子 (1992) 『日本占領下のジャワ農村の変容』, 草思社。

Kwartanada, Didi (1996) “Minoritas Tionghoa dan Fasisme Jepang: Jawa, 1942-1945”, in *Pengusaha Ekonomi dan Siasat Pengusaha Tionghoa*, Kanisius & Lembaga Studi Realino, pp.24-41.

Twang Peck Yang (1998) *The Chinese Business Elite in Indonesia and the Transition to Independence 1940-1950*, Oxford UP.

早稲田大学大隈記念社会科学研究所 (1959) 『インドネシアにおける日本軍政の研究』, 紀伊国屋書店。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 津田 浩司
2. 発表標題 日本軍政期ジャワの華僑向け日刊紙『共栄報』の研究
3. 学会等名 東南アジア学会 2018年度第1回関東例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津田 浩司
2. 発表標題 『共栄報』と日本軍政下の華僑社会
3. 学会等名 南山大学外国語学部アジア学科主催セミナー「『国民国家』インドネシア再考」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津田浩司
2. 発表標題 「華僑・華人学」における対象の規定性を超えて 趣旨説明
3. 学会等名 日本華僑華人学会2016年度研究大会 シンポジウム「「華僑・華人学」における対象の規定性を超えて」
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 TSUDA Koji	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Transmission Books & Microinfo	5. 総ページ数 94+iv
3. 書名 Kung Yung Pao, The Only Daily Newspaper for the Ethnic Chinese in Java during Japanese Occupation: An Overview	

1. 著者名 信田敏宏 (編集委員長)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 832 (担当: 「春節の祝い」, pp.632-633)
3. 書名 東南アジア文化事典	

1. 著者名 東京大学教養学部 (編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 232 (担当: 「歴史 一高から東京大 学教養学部へ」, pp.14-17)
3. 書名 東京大学駒場スタイル	

1. 著者名 津田 浩司 (監修・解題)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 全32巻 + 別冊1
3. 書名 復刻 共栄報 1942 ~ 1945	

1. 著者名 Lohanda, Mona (ed.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Direktorat Sejarah, Direktorat Jenderal Kebudayaan Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan RI	5. 総ページ数 268pp.+vi
3. 書名 Bibliografi Beranotasi Sumber Sejarah Masa Pendudukan Jepang di Indonesia	

1. 著者名 華僑華人の事典編集委員会（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 xxi+593
3. 書名 『華僑華人の事典』	

1. 著者名 山口裕子・金子正徳・津田浩司（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 333
3. 書名 『「国家英雄」が映すインドネシア』	

1. 著者名 北村由美（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学附属図書館	5. 総ページ数 316
3. 書名 『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>『共栄報 (Kung Yung Pao)』復刻プロジェクト http://sites.anthro.c.u-tokyo.ac.jp/tsuda/home/published_works/kungyungpao</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----